中南米スペイン語に於ける二人称代名詞体系について
— 歴史的考察 —

山下好孝

Ⅰ. 序
Ⅱ. 歴史的展開
Ⅲ. VOSEO
Ⅳ. 結語

Ⅰ. 序

現在、スペイン語は、スペイン本国とブラジルを除く中南米のほとんどの国で話され、いわゆるロマンス諸語の中で、最も広い地理的分布をなしている。

イベリア半島スペイン語と中南米スペイン語の顕著な違いの一つとして二人称代名詞体系が挙げられるだろう。アンダルシア地方の一部とカナリア諸島を除くスペイン本国では、表①のような体系を持っているのに対し、メキシコ、ペルー等の中南米諸地域では、表②のようになっている。[1)]

表① スペイン本国二人称体系

	単数	複数
親称	tú	vosotros
敬称	usted	ustedes

表② 中南米スペイン語二人称体系A

	単数	複数
親称	tú	ustedes
敬称	usted	ustedes

更に、アルゼンチンを始めとするラ・プラタ川流域地方、コスタ・リカ、グアテマラ等の中米諸国では、親称単数として vos という形式が用いられる。[2)]

表③ 中南米スペイン語二人称体系B

	単数	複数
親称	vos	ustedes
敬称	usted	ustedes

この vos という形式について、ポズナーはその著書で次のように述べている。[3)]

中南米のスペイン語の形態論的特徴としては、教養のない話し方に多く見られる「vosの使用」(voseo)が挙げられる。── これは古語法の名残りである。黄金期以前のスペイン語では複数形の人称代名詞 vos（cf. 現代語 vosotros ＝「君達」）が単数の相手に対する敬称代名詞として用いられたが、[4] 古典期のスペイン語では vuestra merced（＝「あなた様のお恵み」）が好まれ、これは縮約されて usted（Vd. と略記される）となった。中南米のスペイン語では vos の使用が引き続き見られ（＝「君（お前）は」）、しばしば独得の動詞活用を伴っている。[5]

さらに、vos の格パラダイムを示すと、

表④　voseo の格パラダイム

主　格	対　格	与　格	所有格	前置詞格[6]
vos	te	te	tu (yo)	a vos
cf. tú vosotros	te os	te os	tu (yo) vuestro	a ti a vosotros

となっており、語源を同じくする vosotros の諸形式ではなく、もともと二人称単数代名詞である tú の諸形式と組合わさっている点が注目される。

本稿の目的は、この vos という形式を中心に、スペイン語二人称代名詞体系をラテン語まで遡って考察し、いかにして中南米スペイン語にこの形式が残ったかを論ずることにある。

II. 歴史的展開

ラテン語の二人称代名詞体系は、単数 tu, 複数 vos というものであったが、俗ラテン語の時代に入ると、複数形の vos が単数の権力者に話しかけるためのていねいな呼びかけの形で使われるようになった。[7] そこから話し相手の社会階層の上下により、tu, vos を使い分ける習慣が生じたのである。

表⑤　俗ラテン語の二人称体系

	上層に対し	下層に対し
社会上層	vos	tu
社会下層	vos	tu

12世紀、中世スペイン語の時代になると、vos が敬称単数代名詞の価値を持ち、tú は親しい者どうしが話す際に使われるようになり、二人称体系全体は、現代フランス語の様相を呈している。

表⑥　12世紀スペイン語二人称体系

	単　数	複　数
親　称	tú	vos
敬　称	vos	vos

さらに時代が進み、1492年のコロンブスの新大陸発見を経て、スペインの新大陸植民が本格化する16世紀を迎える。この時期、二人称体系は一層複雑になって行った。新たな敬称として、三人称代名詞 él, ella, を転用したものや、尊敬の意味を持つ抽象名詞で呼びかける vuestra merced, vuestra señoría

などの形式が加わったのである。

新しく生まれた敬称は、自然に淘汰され、vuestra merced より派生する usted が一般化した。[8] こうした新形式誕生の背景には、古い敬称 vos の価値失墜という事実がある。12世紀スペインの叙事詩「我がシドの歌 (Cantar de Mío Cid) の中に、tú と vos が区別なく混用される例が見うけられるし、[10] 16世紀の演劇では、敬称であるべき vos を、親しさの欠ける印として、あたかも蔑称のように使っている例がある。[11] 敬称として vos が長く使われているうちにその価値が摩滅し、もっと敬意をはっきり表わす形式が必要となったのである。そして、新形式が使われ出すと、旧形式の没落はいよいよ激しくなり、18世紀スペインでは、もはや vos という形式自体忘れ去られたのである。[12]

表⑦　16世紀スペイン語二人称体系

	単　　数	複　　数
親　　称	tú	vos (otros) [9]
古 い 敬 称	vos	vos (otros)
新しい敬称 （文法的に三人称）	él　ella vuestra merced vuestra señoría su merced etc.	それぞれの複数形

しかしながら、16～17世紀のスペイン演劇作品の中に、貴族を vos で呼んだりする敬称の用例が数多くみられ、社会環境によってはその敬称としての価値が長く保持されることもあった。いずれにせよ、vos という形式が激しく揺れている時期に、スペイン語が中南米に移入されたわけである。

新大陸発見は、16世紀のわずか手前、1492 年に起こった出来事だが、この年、興味深い二つの事件が重なっている。

その一つは、Antonio de Nebrija による初めてのスペイン語文法書の刊行である。同書で二人称体系について調べてみよう。[13]

表⑧　Nebrija による二人称体系

	単　　数	複　　数
1 格（主）	tú	vos
2 格（属）	de tí （ママ）	de vos
3 格（与）	te, a tí	vos, a vos
4 格（対）	te, a tí	vos, a vos
5 格（呼）	o tú	o vos

ここには新しい複数形式 vosotros が記載されておらず、また与格、対格も新しい形式 osとなっていない。文法書の保守的性格から考えて、この体系が全く当時のものであるとは言い難いが、未だ vos の複数としての価値が認められていることは注目に価する。

もう一つの出来事は、カトリック両王 (los Reyes Católicos) によるユダヤ人の追放である。宗教的理由でスペインを追われたユダヤ人たちは、彼らの新しい居住地にスペイン語を持ち込んだ。それが今

日でも生き残り、ユダヤ人スペイン語 (el judeo-español) と呼ばれる。Malinowski (1981)は、紆余曲折を経てイスラエルに住みついた現代のユダヤ人スペイン語をコーパスとした研究で、彼らの二人称代名詞体系を、下の表のように報告している。[14)]

Malinowski によると、vos の敬称としての使用は、el (< él), eya (< ella) にとってかわられつつあり、tú も vos の領域を侵食しつつあるそうである。vos がこのまま使われなくなれば、かつてスペイン語の vos が歩んだのと同じ道をたどることになる。

表⑨ 現代ユダヤ人スペイン語 2 人称体系

	単　　数	複　　数
親　　称	tu	vozotros (voz, vozos)
敬　　称	vos (vozos, vozotros) el / eya su merced	vozotros (voz, vosos) (ママ) eyos / eyas

ユダヤ人スペイン語の vos が tu と混用され区別なく用いられたり、tu に対し vos の動詞形が用いられたりする例も報告されており、[15)]もしユダヤ人スペイン語が古いスペイン語の形態をとどめているとするならば、中南米スペイン語の vos が生まれた状況を、今に伝えているように考えられないだろうか。

次章では、この vos に焦点を定め考察を進める。

Ⅲ VOSEO

ここでは、まず、中南米スペイン語の代表的研究書 Kany (1951)より、voseo (vos の使用)の起源に言及している箇所を引用してみよう。[16)]

> (しかし) vos は中南米で力強く生き残っている。その理由としては、(中略)、征服者たちのほとんどが低い身分の出で、お互い vos で呼び合ったことが、たぶん挙げられるだろう。また、彼らは被征服者たるインディオと白人の混血児を vos で呼び、自分たちの優越性を示したのである。tú も使われたが、それは一般の人々の身分が同じ者同士、主人と召使いの親密な間柄のことであった。ただし、後者の場合、主人が召使いに腹を立てた時など、tú から vos に呼び方が変わるのである。

Kany の主張によると、下層階級出身者の間や、下の者に対して使われるのが vos の用法ということになる。事実、現代の中南米スペイン語に於いて、vos が使用される地域で、vos は粗野なものだとか、俗っぽい表現であると受けとめられている。社会全階層で広く vos を使用するアルゼンチンに於いても、学校教育や書き言葉では、vos を tú に置き換えるし、コロンビアなどでは、vos は田舎者が使う言葉と見なされている。

ところが、1500年から1650年までの新大陸に於ける文書で、tú, vos, vuestra merced の使用例を調査した Del Castillo (1982)によると、今までの推察に反する報告がなされている。[17)]

- 16 世紀初期～中期

  vuestra merced という対称詞 (tratamiento) はこの時期 vos の価値を落としてはいない。vos は vuestra merced とほぼ同レベルで用いられている。(後略)

• 16世紀後期～17世紀前半

この時期に、（もう少し早くかも知れないが）、vosがvuestra mercedとélに使用領域を譲ったのは明らかである。（中略） しかしながら、それでもvosの敬称としての使用例は数多く見られる。（後略）

Kanyの説では、下層階級の間で、または下層階級に対して用いられるはずのvosが、文書の中で、しかも敬称として長く使われたということになる。

この矛盾はいかに解釈すべきであろうか。

まず、16世紀スペイン語で、社会階層の違いにより、vosの価値が異なっていたのではないかと考えられる。社会下層では、早くからvosの価値下落が進んだのに対し、保守的な上層では、vosの敬称としての価値が長く保持されたのだろう。文書の書き言葉に、長く敬称のvosが本来の格パラダイムを伴って残っているのは、その反映である。

そうすると、いかにして敬称の価値を失ったvosが中南米に広まったのであろうか。

植民地時代、新大陸に足を踏み入れたスペイン人たちは、原住民のインディオと接触するようになった。原住民に対するスペイン語教育には、ある程度の年月を要したので、インディオたちがスペイン語をマスターするまでに、両者の間に一種のピジン言語が存在したと考えられる。[18]その際採用される二人称代名詞は何であったろうか。túでは親しすぎるし、vuestra mercedとは被征服民を呼ぶのにふさわしくない。それらの中間に位置するvosが使われたと考えるのが最も自然である。[19]

この点に関連して、vosが植民地時代、黒人奴隷間で使われていた証拠がある。San Basilio de Palenque（コロンビア――地図参照）という村は、17世紀に反乱を起こした黒人奴隷たちが山奥に逃げ込み形成した集落である。そして、今世紀初頭まで外界との接触を断って孤立した生活を営んでいた。San Basilioの周りはtúを使用する地域であるが、ここでは二人称単数代名詞にbo (< vos), 複数にutere (< ustedes)が用いられている。[20]アフリカから連れて来られた黒人たちは、お互いのコミュニケーションができないよう、言語の異なる部族の者が組み合わされ、労働力として供給された。従って、彼らはコミュニケーションの道具として自分たちの主人の言語（英語、フランス語、ポルトガル語、オランダ語、スペイン語）に頼らざるを得なかった。San Basilioの例から、当時スペイン人たちが奴隷を、または自分たちの仲間をvosで呼んでいたことが推論される。

他方、スペイン語をベースにしたクリオール言語に、ベネズエラの北、キュラソー島のパピアメント(papiamento)がある。（地図参照）ここでも二人称単数代名詞は、bo (< vos)が使われている。[21]

以上のことから、植民地時代初期には、全中南米でvosが二人称単数代名詞として使用されていたのではないかと考えられる。この点について堀田（1976）は、言語地理学の観点から考察をすすめ、同様の結論を導き出している。本稿末の地図から分かるように、vosの使用地域はtúの地域に分断されている。周辺分布の原則から、かつて全域がvosの使用地域であったところに、スペインからtúを使う規範が遅れて入り込んで来たというのである。túの使用地域の中心は、メキシコとペールであるが、両地域とも植民地時代、本国スペインと結びつきの強い所であったことは、この主張を裏付けている。

もちろん、vosを用いるピジン化されたスペイン語が、社会下層階級のものを基にしたことは、間違いなかろう。彼らこそが、黒人奴隷や原住民インディオと日々接触したからである。一方、植民地内で

形成される白人系上流社会では、スペイン本国と同じ言語習慣が普及し、 vos の使用を下品なもの、俗なものと見なしたのであろう。

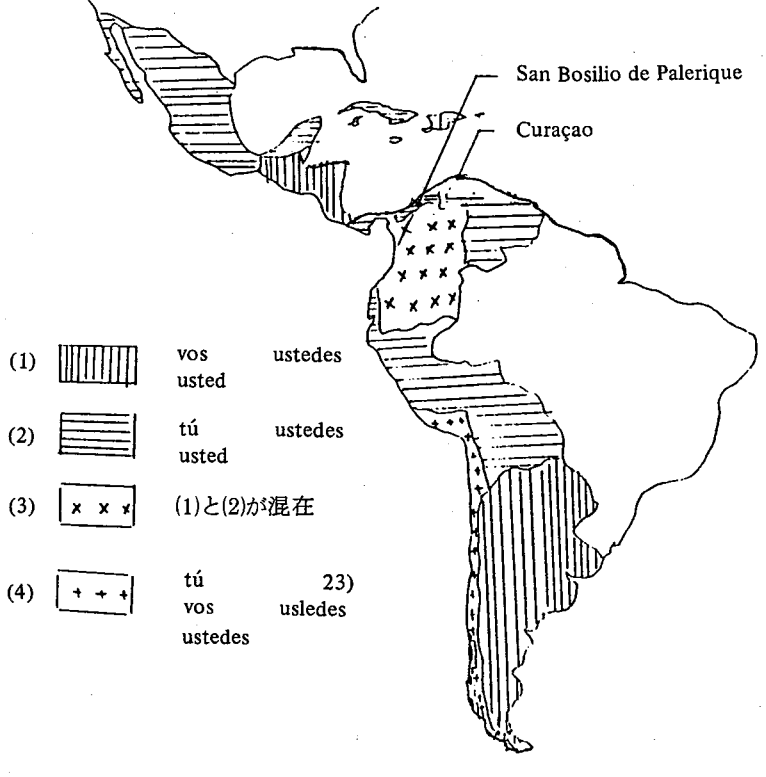
Ⅳ 結　語

本稿では、スペイン語の二人称代名詞体系を歴史的に概観し、中南米スペイン語の vos について従来から言われてきた説に疑問を投げ掛けた。16世紀に敬称の価値を失った vos が、スペインではその後忘れ去られたが、中南米では生き残ったという簡単な説明に代えて、社会階層の違いにより vos の価値が異なり、社会下層のものが、中南米でピジン化したスペイン語を通じて広まったとの仮説を提案した。

本稿で取り扱われなかった問題に、中南米スペイン語に於ける vosotros の消失ということがある。16世紀初頭、この形式が二人称複数として完全に定着しておらず、また、動詞形、格パラダイムがvos のものと同じであったことから、 vos との混合を避けるため、複数形に vuestra merced 系列のものを使用するようになったのかも知れない。この問題については、別の機会に詳しく論じたいと思う。

ロマンス諸語で、元来敬称の単数として用いられた形式が、親称として用いるようになったのは、中南米スペイン語の一部以外に、ハイチのフランス語とブラジルのポルトガル語に見られる。前者では vous, 後者では você (< vostra merced) が単数の親称として使われる。また、ブラジル・ポルトガル語の você は、格パラダイムに tu 系列のものを使う場合があり、[22] 中南米スペイン語の voseo と共通点がみられる。こういった現象が、新大陸に渡ったロマンス語に存在するのは、単なる偶然であろうか。新大陸のピジン・クリオール言語の起源とも関連し、非常に興味深い問題である。　（1984. 9）

地図　中南米スペイン語の二人称体系



（註）

0) 本稿は1984年5月19日に名古屋で開催された日本ロマンス語学会第20回大会にて口頭発表したもののまとめである。席上、有益なコメントをいただいた近松洋男先生、秦隆昌先生の御両人に感謝の意を表したい。

1) 表の「親称」とは、親しい者の間（友人・夫婦・兄弟 etc.）や目下の者に対して用いられる形式を指す。「敬称」とは、目上の者や親しくない間柄で使われる形式を示す。

2) 以上3つの二人称代名詞体系の地理的分布については、本稿の地図を参照のこと。

3) ポズナー（1982）p 310

4) スペインの黄金期とは、16～17世紀を指す。後に出てくる古典期という言葉も同じ時期を示しているようである。

5) 動詞活用形については、花村（1955）、瓜谷（1965）、堀田（1976）を参照のこと。

6) 前置詞格とは、現代スペイン語で前置詞に支配される時の形式を意味する。

7) エイチソン（1980） p 181～p 182

8) usted という形式の初出は1620年。Spaulding（1967）p 167を参照。

9) vosotros (< vos alteros) は、最初 vos の強調形として用いられたが、しだいに複数としての意味を持ち始めた。だが、16世紀初頭においては、vos の複数としての価値はまだ完全に失われたわけではない。

10) R. Menéndez Pidal : Cantar de Mío Cid (Madrid 1980) 409行目、218～221行目を参照

11) Lope de Rueda : El Deleitoso（1565）の諸作品を参照のこと。

12) Lapesa（1980）p 578を参照。なお vos の価値についての諸文献の記述は、秦（1963）に詳しい。

13) Nebrija（1492）p 234

14) Malinowski（1983）p 22

15) Díaz Plaja（1968）p 156～p 158に以下の例がある。……は vos 系列、―― は tú 系列を示す。

-tú sos tañedor.（お前は音楽家だ）

-¿quétal vos agradó, siñor?（お気に召しましたか、王様）

-a tu comando, siñor.（御意のままに王様）

また、Alvar（1964）p 145では

((No me dejéis, mi madre. / irme he de ir contigo,（母上、私を捨てないで下さい。あなたと一緒に行きます。）

16) Kany（1951）p 61より。原文は次のとおり。

(But) the *vos* has to this day survived vigorously in Spanish America, possibly, (. . .), because the *conquistadores* were to a large extent of lowly social rank and used *vos* among themselves; they addressed Indians and mestizos with *vos,* thus assuming an air of superiority. And *tú* was also used between equals among the common people, as well as confidentially between servants and masters except that, when a master became irate, he changed from *tú* to *vos.*

17) Del Castillo (1982) p 637～p 638 原文は次のとおり。

A. PRINCIPIOS Y MEDIADOS DEL SIGLO XVI

1. El tratamiento de *vuestra merced* no degrada al *vos* en este lapso. *Vos* se sigue empleando casi en el mismo nivel que *vuestra merced.* (. . .)

B. FINALES DEL SIGLO XVI Y PRIMERA MITAD DEL SIGLO XVII

1. En esta época (y un poco antes quizá) *vos* pierde claramente terreno frente a *vuestra merced* y a *él* (. . .)

Sin embargo son numerosos todavía los ejemplos de *vos* respetuoso, (. . .)

18) Rosenblat (1964) p 194に以下の記述がある。

Por vías diversas se creó un trato familiar entre españoles e indios, "mesclándose las lenguas de unos y otros", dice Pedro Mártir.

19) Bernal Díaz del Castillo (1491 – 1581 ?) の Historia verdadera de la conquista de la Nueva España. 第6章にある "façételo vos, pues no ganamos sueldo" というのが、中南米 VOSEO の最初の例とされる。しかも、これがスペイン人ではなく外国人船乗り（トルコ人またはギリシア人と考えられる）の口から出たことは興味深い。 Lapesa (1970) p 522を参照。

20) Bikerton and Escalante (1970) p 258

21) Navarro Tomás (1953) p 187. 及び Van Wijk (1958) p 173

22) 河野 (1978) p 24, 河野 (1982) p 47を参照.

23) チリでは、tú を使って話しかける人に憤りを感じた時など、tú から vos への転換がみられる。

邦語参考文献

エイチソン, J, (1980)：入門言語学、（田中、田中訳）金星堂

花村哲夫 (1955)：「アメリカン・スパニッシュの特性」 小樽商大人文研究X 29－46

秦 隆昌 (1963)：「ドン・キホーテ（第一部）に於ける tú, vos, 及び vuestra merced の tratamiento について」 京都外大研究論叢V 11－31

堀田英夫 (1976)：「VOSEO と TUTEO」 Hispánia XX 52～68

伊藤太吾 (1978)：「アメリカ・スペイン語の voseo の起源について」 Estudios Hispánicos 1978 33－49

河野 彰 (1978)：「ブラジル・ポルトガル語における対称詞と動詞の命令法について」南欧文化V 19～33

ibid. (1982)：「ポルトガル語の命令文について」 大阪外大学報 59 37－52

西江雅之 (1983)：「ピジン・クレオル諸語」 図書 83年4月号（岩波書店） 13－19

西光義弘 (1982)：「ピジン・クレオール研究動向」 月刊言語 vol. 11. №7 105～113

ポズナー, R. (1982)：ロマンス語入門 （風間、長神訳） 大修館

瓜谷良平 (1965)：「米州スペイン語に於ける voseo について」 拓殖大学論集 46・47 419～442

BIBLIOGRAFIA

Alvar, Manuel (1964) : Endechas judeo-españolas, edición refundida, CSIC, Madrid

Anónimo (1555) : Util y breve institution para aprender los principios y fundamentos de la lengua hespañola, Lovaina 1555 (Ed. facsimilar con estudio e índice de Antonio Roldán) CSIC, Madrid 1977

Bikerton, Derek and Escalante, Aquilas (1970): "Palenquero : Spanish-based Creole of Northern Colombia" en Lingua 24 254-267

Bernal Díaz del Castillo (1632) : Historia verdadera de la conquista de la Nueva España (Ed. y notas de Joaquín Ramírez Cabañas) Porrúa, México 1976

Díaz Plaja, Guillermo (1968) : Historia del español a través de la imagen y el ejemplo, Editorial Ciorda, Buenos Aires

Del Castillo, Nicolás (1982) : "Testimonios del uso de `vuestra merced´ `vos´ y `tú´ en América (1500-1650)" en BICC (Thesaurus, Boletín del Instituto Caro y Cuervo) XXXVII 602-644

Flores, Luis (1957) : Habla y cultura popular en Antioquia, Instituto Caro y Guervo, Bogotá

Gili Gaya, Samuel (1946): "Nosotros, vosotros": en Revista de Filología Española XXX, 108-117

Granda, Germán de (1966) : "La evolución del sistema de posesivos en el español atlántico" en Boletín de Real Academia Española, XLVI 69-82

——— (1968) : "La tipología `criolla´ de dos hablas de área lingüística hispánica" en BICC XXIII 193-205

——— (1973) : "Papiamento en Hispanoamérica (siglos VXII-XIX)" en BICC XXVIII 1-13

——— (1978) : "Las formas verbales diptongadas en el voseo hispanoamericano. Una interpretación sociohistórica de datos dialectales en NRFH (Nueva Revista de Filología Hispánica) XXVII 80-92

Harris, Martin (1978) : The Evolution of French Syntax. A Comparative Approach, Longman

Kany, Chales E. (1951) : American Spanish Syntax, 2nd. ed., The University of Chicago Press

Lapesa, Rafael (1970) : "Las formas verbales de segunda persona y los orígenes de voseo" en Actas del III Congreso Internacional de Hispanistas, México.

——— (1980) : Historia de la lengua española, 8ª ed. Gredos Madrid

Malinowski, Arlene (1983) : "The Pronouns of Address in Contemporary Judeo-Spanish" en Romance Philology XXXVII No. 1 20-35

Malmberg, Bertil (1947-48) : "L´espagnol dans le Nouveau Monde- Problème de linguistique générale" en Studia Linguistica I 79-116, II 1-36

——— (1971) : La América hispanohablante, ISTMO,

Madrid Montes, José Joaquín (1959) : "Del español hablado en Bolívar. Colombia" en BICC XIV 82-110

——— (1962) : "Sobre el habla de San Basilio de Palenque (Bolívar, Colombia)" en BICC XVII 446-450

——— (1964) : "Sobre el voseo en Colombia" en BICC XXII 21-44

——— (1974) : "El habla del Chocó" en BICC XXIX 409-428

Navarro Tomás (1923) : "Vuesasted > usted" en Revista de Filología Española X 310-311

——— (1953) : "Observaciones sobre el papiamento" en NRFH VII 183-189

Nebrija, Antonio de (1492): Gramática de la lengua castellana (Ed. de Antonio Quilis) Editorial Nacional, Madrid, 1980

Nehama, Joseh (1977) : Dictionnaire du judéo-espagnol, CSIC, Madrid

Pedretti de Bolón, Alma (1983) : El idioma de los uruguayos, La Banda Oriental, Montevideo

Pérez, José A. (1959-60) : "Fórmulas de tratamiento en Colombia" en Filosofía y Educación núm.28 47-62

Pla Cárceles, José (1923a) : "La evolución del tratamiento de vuestra merced" en Revista de Filologá Española X 245-280

——— (1923b) : "Vuestra merced > usted" en Revista de Filología Española X402-403

Rosenblat, Angel (1964) : "La hispanización de América" en Presente y Futuro de la Lengua Española, Madrid

Spaulding, Robert K. (1967) : How Spanish Grew, Universty of California Press

Spintzer, Leo (1947) : "Vostros" en Revista de Filología Española XXXI 170-175

Urrutia, Hernán y Alvarez, Manuela (1983) : Esquema de morfosintaxis histórica del español, Universidad de Deusto, Bilbao

Van Wijk, H. L. A. (1968): "Orígenes y evolución del papiamentu" en Neophilologus 42, 3 169-182

Villalón (1558) : Gramática castellana por el licenciado Villalón, CSIC, Madrid, edición facsimilar 1971